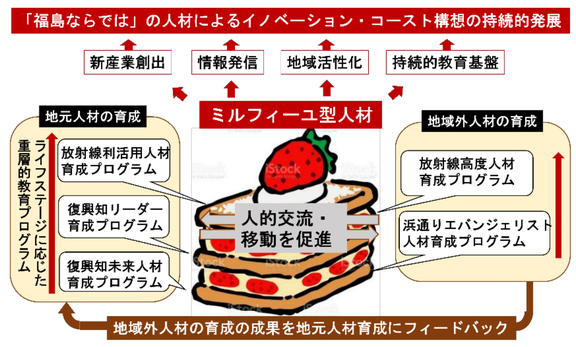
福島復興知学の深化と展開：ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

採択大学　東京大学
(共同申請校：福島工業高等専門学校)

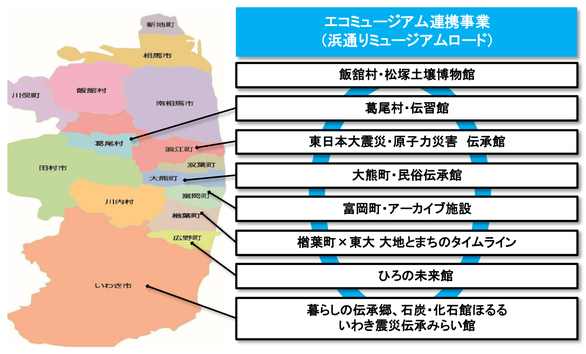
連携市町村　葛尾村・大熊町・富岡町・楢葉町・広野町・いわき市

取組概要（目的）

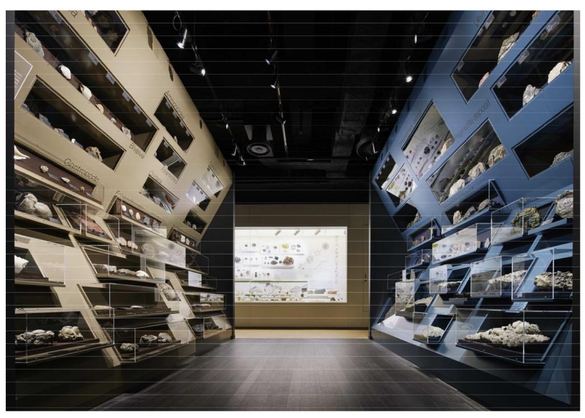


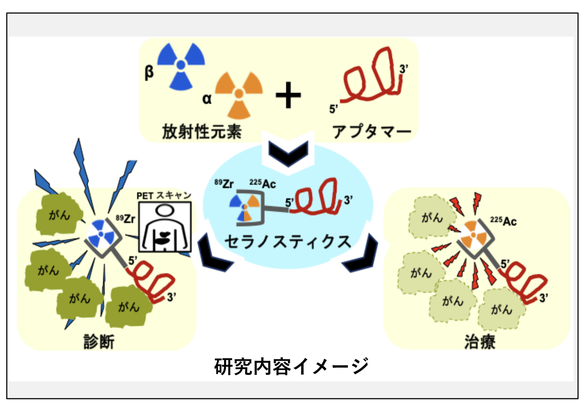
【事業概要】
2018-2020年度の「復興知」事業を通じて、学内ネットワークと浜通り東大拠点ネットワークを構築した。さらに2022年3月9日に福島県と東京大学との包括的な連携協定を締結した。本事業では、上記の成果を深化させることで、福島の創造的復興に貢献できる人材(重層的なスキル・知識を獲得した「ミルフィーユ型人材」)を浜通り内外に育成する。また、今年4月22日に楢葉町x東大博物館の連携ミュージアムを開館した。ミュージアム事業を通して他の「復興知」事業や市町村との連携を強化し、事業を面的に展開・発展させる。本事業のHPを開設し、広く情報公開している。

【市町村との連携体制の構築】
6市町村と連携して事業を実施する。『浜通りミュージアム・ロード』事業(右図)として浜通りに所在する多様な資料館等が連携し、地域の文化的活動・教育的活動のゆりかごとして機能することを目指した取り組みを実施する。自治体間の「架け橋」としても機能することを目指す。



【5年間の人材育成目標】
これらの事業を通して重層的なスキル・知識を獲得した「ミルフィーユ型人材」を育成することを目標とする。福島では地域の創造的復興を担う未来人材、地域外では世界的視野で福島の発展を支える人材の育成を目指し、様々な取り組みを進めている。





研究内容イメージ

これまでの成果

【地域の創造的復興を担う未来人材の育成】
1.復興知未来人材育成プログラム
◇出前授業・復興知科学教室を30回以上開催し、のべ1000人以上の子供達に科学教育プログラム等を提供した。葛尾村・楢葉町・広野町にて東京大学生による「光とは何が違う?放射線の不思議を科学しよう!!」と題した小中学生向けのサイエンス教室を開催。大熊町、楢葉町 では東京理科大生による小中学生向けの科学体験イベントとしてアンモナイトや三葉虫などの化石のレプリカ作りを行った。今年度は平五小第二児童クラブで金融教室を開催(8月7日)し、100名の小学生が参加した。次回開催の要望があった。
2.復興知リーダー育成プログラム
◇連携ミュージアム事業:楢葉町と東大総合研究博物館との連携ミュージアム、大地とまちのタイムラインを開館した。東大博物館の松本特任教授を講師とし、楢葉町コミュニティーセンターにて空間の教室~空間の創造と再生ー建築と都市の歴史から学ぶ~と題して、空間デザインや街づくりを考える東大教室を開催(10月22日)。
◇復興知市民講座を30回以上開催し、のべ500人以上に教育プログラム等を提供した。:いわき市植田公民館とオンラインの併用にて、東大ISC和田教授と埼玉医大の熊倉教授を講師とし「がん治療における最先端の医薬品開発と治療法」を学ぶ先進医療講座を開催(8月1日、会場25名、オンライン15名参加)。10月には初心者のための投資の基礎知識講座を開催(10月19日、会場42名)。
3.放射線利活用人材の育成プログラム
◇実務的な放射線教育:福島高専及び地元企業の社員を対象にして、国家資格である放射線取扱主任者の資格取得をサポートする講義をオンラインで開催した。東京大学で先進的な放射線創薬に関する研究を推進し、大学院生の教育を実施(のべ500名以上に教育プログラムを実施)した。
【放射線利活用人材の育成プログラム】
東京大学アイソトープ総合センター秋光研究室では、放射線創薬の研究を行っています。
内容は、放射医学と核酸学を掛け合わせたセラノスティクスの開発です。放射線は医療現場において、診断を目的とした PET / CT スキャンに用いられますが、治療を目的としても用いられます。これらの目的を、放射性元素を組み替えるだけで一つの分子で叶えられる医薬品を開発することがこの研究の目的です。

事業終了時点の成果及びその後の見通し

【教育プログラムについて】
小中学生を対象とした「復興知未来人材育成プログラム」は、連携する自治体の教育担当部署・学校と協力し、無理なく実施できる教育プログラムを構築することで地元の学校の正課に組み込んでゆく。ミュージアム連携事業を活用した「復興知リーダー育成プログラム」は自治体における職員教育プログラムとして成熟させ、観光開発事業に参加した企業には自立的にプログラムを発展させてもらう。廃炉作業を含め、福島県浜通りの復興は今後数年で終結できる課題ではない。一方、未曽有の原子力被害に直面し、復興に向けて取り組んできたこれまでの作業や教育研究活動からは様々な点で学ぶべきことが非常に多い。そのため、本事業終了後も「放射線利活用人材の育成プログラム」「浜通りエヴァンジェリスト人材育成プログラム」は大学における正課授業として取り組んでゆく。教科書「福島復興知学講義」の改訂も計画している。
【研究プログラムについて】
本事業で実施する研究成果は学問的価値も高いため、科研費や民間財団からの助成金を活用し、持続的に発展させてゆくことが可能と考えている。医薬品開発に資する研究成果も得られることから、研究成果を企業との共同研究にも利用し、資金の獲得や各種助成金の獲得を目指す。